

J X T G 童話賞 選考委員プロフィール

**西本 鶏介 氏** (児童文学者)

奈良県に生まれる。昭和女子大学名誉教授。児童文学や児童文化に対する評論、作家・作品論、民話の研究、創作など幅広く活躍。絵本や民話の再話も多い。また坪田譲治文学賞、椋鳩十文学賞などの選考委員も務める。近著に『おめでとうのさくらまんじゅう』(絵本塾出版)、『まよなかのたんじょうかい』(すずき出版)、『西本鶏介児童文学論コレクション(3巻)ー巖谷小波文芸賞特別賞 受賞ー』(ポプラ社)などがある。

**立原 えりか 氏** (童話作家)

東京都に生まれる。『人魚のくつ』でデビュー。ユーキャンの「立原えりかの童話塾」塾長、「広島アンデルセン」、「池袋コミュニティカレッジ」ほかで童話創作教室の講師などを務める。代表作は『木馬がのった白い船』ほか、『うたってよ、わたしのために』(ポプラ社)、『あみず林のどろぼう』(岩崎書店)、詩集『あなたが好き』(大日本図書)、『王女の草冠』(愛育社)、近著に『立原えりかのグリム童話』(朝日学生新聞社)などがある。

**角野 栄子 氏** (童話作家)

東京都に生まれる。主な作品に『魔女の宅急便』(福音館書店)、『なぞなぞあそびうた』(のら書店)、『ネッシーのおむこさん』(金の星社)、『アッチ コッチ ソッチのちいさなおばけシリーズ』(ポプラ社)、『わたしのママはしずかさん』(偕成社)、『魔女からの手紙』、『ちいさな魔女からの手紙』(ともにポプラ社)、『ラストラン』、『ナーダという名の少女』(角川書店)、近著に『トンネルの森 1945』(角川書店)、『キキに出会った人々』(福音館書店)などがある。2013年に第48回東燃ゼネラル児童文化賞(現JXTG児童文化賞)、2018年に国際アンデルセン賞・作家賞受賞。

**中井 貴恵 氏** (女優・エッセイスト)

数々の映画、ドラマに出演。現在は「大人と子供のための読みきかせの会」の代表を務める。2006年より様々なジャンルの音楽と朗読を合体させた朗読公演『音語り』にも精力的に取り組んでいる。『あらしのよるに』、『きいろいばけつ』、『ナゲキバト』、『晩春』、『秋日和』、『東京物語』、『秋刀魚の味』などを全国で公演中。エッセイスト、絵本翻訳家として著作物多数。

**宮西 達也 氏** (絵本作家)

静岡県に生まれる。人形美術、グラフィックデザイナーを経て絵本を書き始める。主な作品に、『おまえうまそうだな』(ティラノサウルスシリーズ:ポプラ社)、『おとうさんはウルトラマン』、『パパはウルトラセブン』(ともに学習研究社)、『ヘンテコリンおじさん』(講談社)、『きょうはなんてうんがいいんだろう』(鈴木出版)など多数。

**薫 くみこ 氏** (児童文学作家)

東京都に生まれる。高島屋の広告デザイナーを経て、児童文学、絵本、童話の創作を始める。主な作品に『十二歳の合い言葉—12歳シリーズ』(ポプラ社)、『あのときすきになったよ』(教育画劇)、『ハキちゃんの「はっぴょうします」』(佼成出版社)、『ちかちゃんのはじめてだらけ』(日本標準)、『なつのおうさま』(ポプラ社)、『みんなでんしゃ—赤いでんしゃシリーズ』(ひさかたチャイルド)、近著に『げんきのみかたパンツちゃん』、『だいすきのみかたパンツちゃん』(ともにポプラ社)など多数。